

その他の事業のその他における金属材料を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	19~20	当社お客様倉庫内で、機枠の解体作業で重さ20kgの鉄製梁材を分解中棚枠の下側の連結部をしゃがんだ状態で確認中に、高さ約2.2mから梁材の片側が落下して、後頭部にぶつかり負傷した。	50	—
2	8~9	倉庫でパイプから継手はずしていた時工具（スパナ）が滑った為バランスが崩れ右足に体重がかかり負傷した。	51	1~9
2	12~13	当社工場において、レザークロス製品の巻き取り作業中、次の巻き取り棒をセットしたが、少し位置がずれていた為、もう一度やり直そうとしたところ、機台の上に置いた、使用済みの鉄製の心棒（径3cm×1m×80cm、重さ6kg）に当たり、右足の上に落下し、その際右足親指を開放骨折した。	47	30~49
4	11~12	使用していない鉄製簡易水槽が邪魔になり、管理者の指示は無かったが、利便性向上のため溶接機で切断解体作業を行っていたところ、切断した水槽側面部が倒れ、左足の指先から甲にかけて直撃した。	73	100~299
9	16~17	中2階で、撮影機材の整理をしていたところ、重りの付いた機材を移動し持ち上げた時に重りが移動して落下し、右足の親指に当たり負傷した。	28	10~29
9	13~14	太陽光パネルのアルミ枠の外し作業（倉庫内にて）において、パネルの表面に張り付いているアルミを手で勢いよく剥がした際に、手で先端を持たず中間部分を引っ張り、アルミ枠の端が反動で跳ね上がり、左目にそのアルミ枠の先端が当たり損傷。	47	50~99
		工場鉄板廃材であるコイル（帯鉄を巻き取って筒状になったもの）をトラックに		

9	13~14	積み込む作業を行っていた。その中に直径70~80cm、鉄板巾5~6cm、巻き厚さ7~8cm（重さ100kg程）の幅の狭いコイル廃材が2個あり、これは「立てて運ぶよ」との指示があったので、この2個を番線で締め、1つにまとめたので他の大型コイル廃材と組み合わせ、立てた状態で片膝を荷台についた姿勢でワイヤー掛けをしていた、下を向いてロープ締めを行っていたので、巾せまいコイル2個が倒れてきたのに気付かず、右足首上にコイルが倒れこんだ。	30 54 49
9	6~7	L-5 ETC専用レーンに誤進入車が流入、課金処理後、お客様の車両へ向かう途中で支柱のボルトに足をとられて転倒、その際支柱に右膝を強打し負傷したものである。	10 50 29
12	10~11	バックヤード通路にて、デジタルサイネージ回収作業でTVをダンボールへ入れるため高さを調整中、上の鉄板を支えながらネジを外していたとき、両サイドのネジがゆるみ、右腕を鉄板に挟まれ、右腕を打撲した。	100 45 299

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html